



明治末期に立てられた青砂ヶ浦教会

青砂ヶ浦教会

砂ヶ浦教会
上五島・長崎巡礼(16)

新上五島町は「新魚目」「上五島」「有川」「若松」「奈良尾」の五つのエリアに分けられ、責

砂ヶ浦教会は一番北の新魚目エリアの小高い丘の上にある。新上五島町にある一

十九の教会の中で信徒
数は千百五十人と一番
多く、国の重要文化財
でもある。禁教令撤廃
後の明治十二年ごろは
小さな集会所であつた
が、現在の教会は三代
目で明治四十三年（三

今でこそフェリーが着く有川港から車で二十分余りの小高い丘の上と表現するが、二十九の教会のほとんどが小高い丘や山の上にあるのは、当時海に面した住み良い平地は先住の人たちが住んでおり、大村藩から開拓移民として来た彼らは仕方なくへき地の山を開拓して住み着いたためという。

五島藩が大村藩に開拓
移民の派遣を要請した
当時は、五島列島の中
心は福江島。一七八七年
に移民として五島に
着いた百八人の第一陣
は福江島のへき地の開
拓に当たつた。

信徒の多くは漁業によつて生計を営む。彼らの先祖たちは約二百年前に長崎・外海地方から海を越えて住み着き、離島のへき地で厳しい自然の中で神を信じ、ひつそりと信仰を守り続けた。そして信仰の自由が認められた今から百年前にこのようないなレンガ造りの青砂ケ浦教会を持つことができたのである。

（元山口放送取締役ラジオ局長）「お詫びと訂正」
前回、第二百三十回の最下段五行目で「不運な人々への悲しみ」とあるのは「そへの慈悲み」の誤りでした。

トリックの集
落に建てられたため、
教会の多くは高い丘の
上にある。決して展望
が良いから高台に建て
たわけではない。

て生活した。この移民たちのほとんどが隠れキリストンであつたことはすでにふれた通りである。

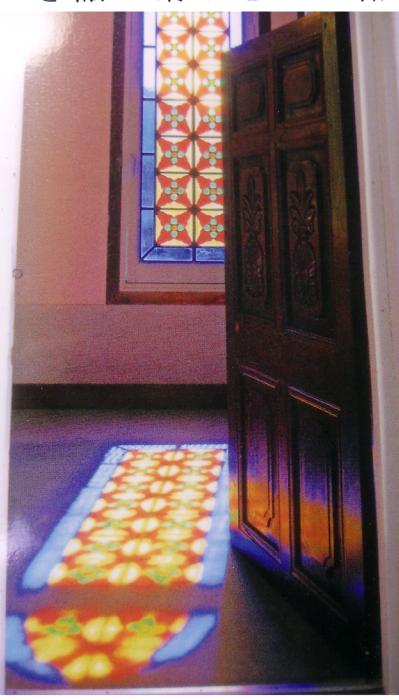
にタイムスリップした
ように思えた。



藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

九
た。
に建てられ
た。昨年がちょうど献堂
百周年に当たり、二〇〇〇
八年から一年かけて
大改修された。写真で
もわかるように外壁が
レンガ造りの教会は新
築のように美しく、祭
壇の上の天井や側面の
窓のステンドグラスが
実にカラフルである。

今回一緒に旅をした上五島出身の近藤氏によると、小さいころ、貧しい集落と言えばカトリック信徒の集落だったといふ。禁教令撤廃後、教会を建てる際はカ



と訂正
一百三十回
行目で「不
の悲しみ」
「への慈
りでした。
(編集部)

訂正
取締役ラ
自三十回
目で「不
悲しみ」
への慈
とした。
(編集部)